

# 議会運営委員会行政視察報告書

## 1 視察期間

平成30年7月25日から7月26日まで 2日間

## 2 視察都市

- (1) 兵庫県 西脇市
- (2) 京都府 福知山市

## 3 参加者

加藤文重委員長、高梨俊弘副委員長、小池和広委員、草地博昭委員、芦川和美委員、虫生時彦委員、高田正人委員、鈴木喜文委員、山田安邦委員、増田暢之議長、寺田幹根副議長

随 行：飯田剛典事務局長、神谷英雄主査

## 4 視察事項 【 議会改革・活性化の取り組みについて 】

### ◎兵庫県 西脇市

- (1) 議会基本条例の検証について
- (2) 議会における政策サイクルの導入について
- (3) 主権者教育への取り組みについて
- (4) 議会 I C Tについて
- (5) その他の議会改革・活性化の取り組みについて

### ◎京都府 福知山市

- (1) 議会政策検討会議の設置について
- (2) 自由討議の推進について
- (3) タブレット端末の試行導入について
- (4) 高校生フレッシュ会議について
- (5) その他の議会改革・活性化の取り組みについて

## 5 考察

次のとおり

## I 西脇市 人口：40,973人・面積：132.44km<sup>2</sup>（平成30年4月末現在）

議員定数16名。議会改革度調査2017ランキング総合順位15位（磐田市107位）。

兵庫県のほぼ中央、周囲を山々に囲まれ、加古川とその支流の杉原川の合流地点に市街地が開ける播磨内陸地域の中核都市。年間を通して温暖な瀬戸内気候。200有余年の歴史を誇る「播州織」と伝統技法に支えられた「釣り針」を基幹産業として発展した工芸都市。東経135度（子午線）と北緯35度が交差する「日本のへそ」に位置している。

### (1) 議会基本条例の検証について

西脇市議会基本条例第32条に基づき、この条例が守られ、目的が達成できているかどうかを年に1回検証する。その結果、必要な場合には、この条例の改正を含めて、関係例規等の改正、整備、運用事項等の改善を行うこととしている。

検証の方法は、議員全員にアンケートを行い、62項目について5段階で評価し点数化して評価の基礎とする。アンケート集計は副議長がまとめ、議会運営委員会で検証後、結果を西脇市議会ホームページに公開している。

### (2) 議会における政策サイクルの導入について

議会機能の強化として政策サイクルを策定。審議の充実、政策提案能力を高めるために①年度初めに目標を設定（予算審査時に確認）②効率的に事業を行う（定例会毎に委員会で報告）③達成状況の評価 ④評価に対する考えや見直しの方向性を示す（③、④は年度終了後最終報告を受け委員会で討議）⑤事業の見直しや予算編成等に活用する（評価を踏まえ決算時に提言）のPDCAサイクルを回している。

課題としては、制度への理解がまだ不足していること。1年間のサイクル（計画）はできているが、任期4年間のサイクルへの対応をどのようにするか。

### (3) 主催者教育への取り組みについて

西脇市が目指す主催者教育、①若者に地域や政治への関心を高めてもらう ②若者に主催者としての権利を理解してもらう ③若者に地域への愛着を高めてもらう

・子ども（中学生）議会

平成27年、市政10周年記念事業として開催。中学3年生16名が参加

・高校生版議会報告会

平成28年3月の定例会の予算決算常任委員会において、「今後、若者を中心にした主催者教育に、市、教育委員会、市議会が一体となってその推進を検討すること。」と申し入れを行ったことを契機に、中高生が地域や政治に対する関心を高めることにより、主催者としての権利

を適正に行使するとともに、人口流出の減・Uターンの増へとつなげる具体的な取組方策について調査・研究するため「主権者教育検討小委員会」を設置。

市内の3高等学校における主権者教育に対する現状の取組状況ヒアリングを実施。

高校生議会報告会開催に向け各高校と調整し、平成29年7月に報告会を実施（平成30年度も実施）

#### (4) 議会ITCについて

タブレット端末について、平成27年ペーパーレス化（主として例規集をデータ化する）を目的にiPadを導入。予算書・決算書については、また紙媒体で配布。

端末は市から貸与の形式で、通信はWi-Fiのみ。

会議規則を見直し、本会議場及び委員会室へのパソコン・タブレット等の持ち込みを可能にした。

課題としては、使える人と使えない人との差異（デジタルディバイド）。一般質問でも使用しているが、議場にモニターがないため、傍聴者には資料の内容が見えない。

#### (5) その他の議会改革・活性化の取組について

- ・議員定数について、定数20名 ⇒ 18名（平成20年9月改正）⇒ 16名（平成21年12月改正）に削減。
- ・「課題懇談会」の実施：25年4月から市政に関し市民団体等との情報及び意見交換を行う。

#### (6) 考察

議会基本条例の検証は、一人ひとりの議員がそれぞれに条項について点数制で記入して行っている。その集計を、副議長がすべてまとめ報告するというシステムには少々驚いた。検証方法は、本市と同じである。やはり検証結果が以前と比較できるので良いかと考える。

政策サイクルの導入は、審議の充実、政策提案能力アップを目指しているが、まだ導入間もないため、全議員が理解して・・・ということにはなっていないようであった。時間はかかるがまだ道半ばということだと思ふ。

主権者教育は、西脇市の未来を見据えた取り組みだと感じた。議会報告会を高校で実施することは画期的だと思った、学校の理解を得るのに苦労されたと聞くが熱意をもってやるのが大切と感じた。長く続くことを願いたい。また学生が卒業後、どう関わっているかも期待したい。当市においては、高校が5校もあるため難しい感があるし、磐田市在住の生徒がどのくらいいるのかも考えると、更に難しいと感じたが、若い世代が何を考えているか、知っておくことは必要かと考える。

西脇市議会として「見える化」に取り組んできた。議会ICT化の効果としては「議員への情報提供の迅速化、効率化」や「各種会議の通知文のペーパーレス」が挙げられ、議員にとっても、議会内外での活動の際にタブレット一つで資料閲覧が可能になったというメリットがあるとのことであった。当初の目的が、効率的な情報伝達方法の確立と、紙の省資源化であり、この点において一定の目的は達成されているのだろう。

ただ、①写真撮影や検索など、活動上の利便性は向上しているが・・・、②タブレット導入が議論の深化に役立っているかどうかは判断しづらい、③審議中は紙ベースを利用する議員が多い、等の説明からも、短期的に目覚ましい効果を期待することはむずかしいと感じる。

なによりも、クラウドに資料をアップロードするのは各行政担当課において担当していることで、完全なペーパーレスが実現しないかぎり、職員側の作業量はタブレット分とペーパー分の二重手間が続くことになるわけだが、行政側にタブレット端末導入の予定がない本市としては、この点を十分に考慮・検証して最終判断を行うべきであろうと考える。

## II 福知山市 人口：78,726人・面積：552.54km<sup>2</sup>（平成30年4月末現在）

議員定数26名。議会改革度調査2017ランキング総合順位13位（磐田市107位）。

北近畿の中央に位置する田園商工業都市で兵庫県に接する。古くは城下町として栄え、明治以降も鉄道、道路の北近畿の要衝で商都として発展した。平成18年1月に隣接する三和町、夜久野町、大江町と合併した。

### (1) 議会政策検討会議の設置について

議会の政策提言、政策立案を実現させるため、議員間の共通認識の醸成を図り、合意形成に資することを目的として議会政策検討会議を設置。

○政策提言、政策立案の流れ

- ①提案者（ア 委員会、イ 会派、ウ 議員）
- ②議長へ提案書を提出
- ③協議機関へ提案書を送付等（協議機関は議会改革検討会議）
- ④議長へ協議結果報告
- ⑤政策検討会議を招集（構成：全議員を対象とし座長は議長。）

提案説明し、議員間の合意形成、共通認識の醸成を図る

- ⑥政策提言については、出席議員の過半数の同意を得られれば、市長等の執行機関へ提出。

※消防団活動支援に関する政策提言（総務防災委員会）、空き家対策に関する政策提言（産業建設委員会）が提案され、29年4月に市長に提出

## (2) 自由討議の推進について

- ・自由討議による合意形成（議会基本条例第14条）

議会の会議においては、市長等に対する質疑に加え、議員相互間での議論を活発化し、議長、委員長が、議論の結果を市政に反映させるための政策形成を行う。

実施対象は、常任委員会の所管事項を実施対象とし、自由討議において、合意形成の図られたものについては、議案提出及び委員長報告など必要に応じて本会議に反映させるものとなっている。

予算・決算審査にかかる自由討議からの意見・提言については、項目を取りまとめ、市長に提出し、提言内容について執行部と意見交換を実施。予算・決算審査では1日、自由討議の時間を設けている。

## (3) タブレット端末の試行導入について

平成27年6月から議会改革検討会議において、検討をスタートし、他市事例の研究、議員研修会の企画、事業化に向けた検討など協議を重ねる。

議会改革の一環として、議会運営の効率化と議会の機能強化を図るため、平成29年10月からタブレット端末を試行導入：タブレット端末34台（全議員26名分、事務局8名分）

29年度は、各種会議、住民説明等に活用し、また議会資料等のペーパーレス化などを行い、その有効性や費用対効果を検証した。⇒ 会議資料は、1ヶ月で1980枚の削減につながった。

12月定例会より本会議の一般質問においてタブレット端末を活用。議場内の大型スクリーンに資料を投影し、質問内容に関する写真や図表を投影して、一般傍聴者にもわかりやすい一般質問を実施。

端末は庁舎内・外で使用が可能であり、通信費の費用負担割合については公費負担50%、議員負担50%。

## (4) 高校生フレッシュ議会

平成28年6月から選挙権の年齢が引き下げられることに伴い、将来を担う高校生に、民主主義の原則や地方自治の実践を学習する機会を提供することを目的に平成28年5月に市内の高校（1校）3年生の17名が参加して実施。

本事業は「平成27年度地方創生まちづくりアイデア買取り事業」において、優秀賞を受賞した市民のアイデアを事業化したもの。

## (5) その他の議会改革・活性化の取組について

- ・議会基本条例に基づき議会改革検討会議を平成25年5月に設置。会議の主な内容は、①議会基本条例に基づく議会活動の点検、検証 ②議会改革事項に関する検討 ③議員からの提案、提言の検討。
- ・委員会審査等 ライブ中継・録画配信の導入  
平成25年10月から運用（本会議については、平成19年から実施）。予算・決算審査会、委員会審査、請願審査、役員選出所信表明会等を対象。
- ・議会報告会を平成23年から実施し、これまで12回開催。さらに議会報告会を充実させるため、平成27年度より座談会（対話集会）形式で実施。（全議員と対話形式、所属委員会委員とのグループディスカッション）

## (6) 考察

福知山市の議会改革・活性化の取り組みは、まず議会基本条例を制定し「情報公開の推進」これは、市民への情報公開を積極的にしているが、磐田市でも政務活動費、収支報告など公開はしている。本会議のライブ中継、録画はしているが、福知山市議会は委員会審査等まで実施されている。広報活動は進んでいると感じた。設備等の関係で急いで取り組む必要性は今後の検討かと思う。議会報告会実施は、磐田市も広報広聴委員会で、様々な実施方法を検討して行っているが、福知山市のような各市民団体と「座談会」対話集会のような形式で実施していることについては一考すべきと思う。

自由討議の推進は、議員相互間の議論を尽くし合意形成に努める。を基本に実施されているが、議会で自由討議実施要項を議会改革検討会議で策定し、実施に必要な事項は改革検討会議に諮って決定する。各常任委員会の自由討議実施については、委員長会議で検証して進めている。磐田市においても委員長会議について検討をしているところだが、早期に実施することで横広げができるのではないかと期待できる。

タブレット端末の導入については、議会改革の一環として議会運営の効率化と議会の機能強化を図る目的で導入、議員に直接聞いたところ、住民への説明をする際にタブレットを使い、その場での詳しい説明ができるとのことである。

市民相談に的確に対応できるなどプラスな面もあるが、導入時全員で研修を受けたがレベルはまちまちだという、一定のレベルになるには時間がかかり全員が同じとはなることは難しいとのこと。現在磐田市議会は議運委員、事務局に導入に向けた取り組みをしているが、参考にしたい。

また、本会議場に大型スクリーンを設置して資料投影ができるようになっている。傍聴者、議員にわかるようにだと思うが、資料投影には正副議長他の、確認が必要とのこと

ある。当市議会では、時期尚早ではないかと考える。いずれにしても検討を重ねることが肝要であると感じる。